

- 国土交通省では、ブルーカーボン生態系を活用したCO2吸収源の拡大によるカーボンニュートラルの実現への貢献や生物多様性による豊かな海の実現を目指し、ブルーカーボンの拡大を進めるため、「命を育むみなとのブルーインフラ拡大プロジェクト」今年度よりスタートする。
- これまでも浚渫土砂や産業副産物等を活用し、藻場や干潟の造成等に関する取組を進めてきたが、藻場・干潟等及び生物共生型港湾構造物を「ブルーインフラ」と位置付け、全国の海へ拡大することを目指し、市民団体や企業の参加を促進するためのマッチング支援及び普及啓発等を進める。

ブルーカーボン生態系による効果

水質浄化

温暖化抑制
(炭素貯留)

生物多様性

様々な環境価値をもたらす

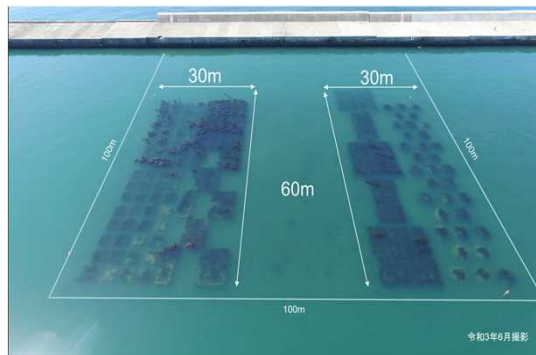
「命を育むみなとのブルーインフラの取組事例」

【浚渫土砂の活用】



(山口県徳山下松港・大島干潟)

【防波堤の活用】



(北海道釧路港)

【生物共生型港湾構造物の整備】



(神奈川県横浜港)

【リサイクル材の活用】



(高知県須崎港)

「命を育むみなのブルーインフラ拡大プロジェクト」の取組概要

- 「命を育むみなのブルーインフラ拡大プロジェクト」においては、ブルーインフラの保全・再生・創出の拡大に向けた環境整備等の取組を短期集中的(令和5年度まで)に進める。

ブルーインフラの全国展開

①ブルーインフラ拡大に向けた先導的な取組の推進

- ・今後、全国の港湾区域内で藻場・干潟等の保全・再生・創出に関する先導的な取組を推進する。
- ・令和4年度内を目途に官民が連携して支援する先導的な取組を募集予定。

(想定する主な支援内容)

- ・官:藻場・干潟等の担い手・関係者(NPO、企業、自治体等)のマッチング支援及び普及啓発
- ・民:藻場・干潟等の保全に関する活動経費の支援(クレジット制度等)

ブルーインフラの保全・創出に関する環境整備

②藻場・干潟等の保全・再生・創出による

社会経済効果の算定手法の確立

- ・温室効果ガス吸収源の拡大効果の簡便な算定手法を検討する。

③港湾施設の設計・工事における

環境保全への配慮に係る取組の強化

- ・今後整備する港湾施設(護岸等)を生物共生型の構造とする標準化を目指し、技術基準の改正を検討するとともに、港湾工事(直轄事業)で試行工事を実施する方向で検討を行う。

等

【クレジット制度イメージ】

